【学校教育目標】
創造：自ら考え、つねに真理を求め創造する生徒
協力：豊かな心を持ち、礼儀正しく協力し合う生徒
忍耐：心身ともに健やかで、ねばり強くやりぬく生徒
奉仕：勤労をいとわず、奉仕につとめ公共につくす生徒

【育成を目指す資質・能力】
『生徒のよさや可能性を最大限引き出すために』
知：**主体的に学ぶ力**
徳：**自分と仲間を大切にする力**
体：**粘り強く挑戦する力**

中体連出場選手にエール・大会では仲間への声援！

～中体連壮行会、中体連大会、陸上記録会から～

５月 31 日のテニスを皮切りに、中体連大会が土･日ごとに開催されています。大会に先立ち、５月 30 日には中体連壮行会が生徒会主催で行われました。

壮行会では、ユニフォームを着た各部の選手たちが決意表明を行い、生徒会総務がリーダーとなって選手たちに健闘を祈るエールが送られました。

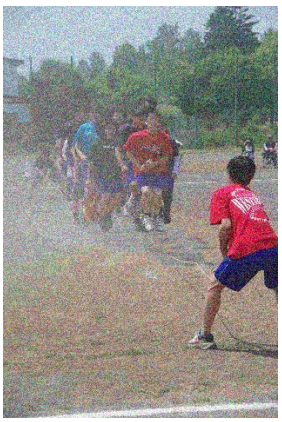
中体連各種大会では熱戦が繰り広げられ、最後まで一生懸命に闘う姿がとても印象に残っています。それと同時に、仲間を必死に応援する姿も感動的でした。特に、西部中体連陸上競技大会では、光陵中学校の生徒が出場する場面になると、「〇〇ガンバ！」という声援が競技場に響き渡り、どの学校よりも大きく聞こえてきました。大会役員の立場があり、スタンドから一緒に応援することができませんでしたが、フィールドの端で聞く光陵中生徒たちの大きな声に、さすが光陵中だと感心しました。

また、20 日に開催された陸上記録会では、個人種目として 100m 走、団体種目として長縄跳びと全員リレーが行われました。

6 月に入ってから長縄やリレーの練習に取り組んできた各学級では、作戦を練り、円陣やかけ声で気合いを入れ、お互いに励まし合いながら学級の団結力と集中力を高めてきました。

当日は、個人種目で選手の紹介が行われると学年を問わず拍手が送られ、一生懸命最後まで走る姿に声援が送られました。

各クラス、練習に熱が入っていた長縄跳びでは、本番の緊張と焦りで実力を出せなかったクラスもありましたが、そうした中で３年１組は２６人×４８回＝1248 点の晴らしい活躍を見せてくれました。



３年１組

３年２組

最後の全員リレーでは、一喜一憂しながら学年問わずに応援に力が入っていました。

私から個人団体問わず、最後まであきらめずに頑張ること。光陵中ならではの元気いっぱいのプレーと声援を期待します。と開会式で全校生徒に話しました。競技中は終始、声が途切れることなく、お互いを応援しあっている生徒の姿に感心していました。この陸上記録会を通して、全校生徒がまた一つ成長できたことを大変うれしく思います。

光陵中学校長　石崎　和昌

SOS の出し方教育（１年）～誰かに思いを伝える大切さ～

【SOS 出し方教育の様子（1 年）】

スクールカウンセラーの右田先生による１年生を対象にした SOS の出し方教育が 11 日（水）に実施しました。中学校に入学して抱えた感情を「プラス」、「マイナス」、「どちらでもない」の３分類されたカードから数枚選択し、同じグループの級友にカードを選んだ理由を説明する活動を行いました。

自分 1 人では気が付かなかった自分のよさに気付き、仲間と会話することで自分と向き合い、他者から見た自分について客観的に向きあうことができるよい機会となりました。

陸上記録会晴天のうちに終了しました。

【女子 100m走の様子（上）】

【長縄跳び前の円陣の様子（右）】

20 日（金）陸上記録会が終了しました。100m走や長縄跳び、学級対抗リレーなど自分たちで設定した記録を乗り越えようと協力しながら取り組む姿が見られました。３年生の団結力や記録に向かう姿勢は後輩たちの手本となっていました。

＜中体連西胆振大会結果＞（胆振大会進出分）

野球　準決勝敗退　対チーム室蘭

卓球　団体　３位　個人安藤、上野、小寺（胆振出場）

テニス　男子団体　２位　女子団体４位（胆振出場）

男子個人　鶴田・安藤（湊）、大内・千石、林部・砂川（ベスト 16 により胆振出場）

バレー　女子　予選リーグ敗退　男子　エスカリエ室蘭優勝（2年守谷）

バドミントン　男女個人予選敗退　男子団体・個人ダブルス優勝　3年斉藤（リアライズ）

陸上（通信陸上）予選敗退

家庭学習のすすめ③

各教科でシラバス（教師が生徒に示す授業計画）を作成し、生徒が授業または単元を振り返る際に各自で学習内容について端末で記入しています。端末がまだ普及していない頃、紙のシラバスに授業の振り返りを記載させたところ、文章を書くことが苦手だったり、何をどのように書いていいかわからなかったりした生徒が、「〇〇が楽しかった。」「今日の授業では■■についてわかった。」など短文でまとめる様子が数多く見られました。

端末が普及した現在、キーボード入力が当たり前となり、「〇〇を学習した時に△△を使って調べたとき、■■の結果が得られたことから、××がその結果に影響しているのではないかと思った。」など振り返る際の文章の語彙数が劇的に増えました。

さらに、端末でシラバスを共同編集しながら作成できるようになり、勉強が得意な〇〇さんのまとめを参考にしながら、自分の考えを記入することで授業に主体的に関われる生徒が増えてきました。

家庭学習でも授業中に気付いた「あ～わかった」、「〇〇の考え方と同じだ」、「前の■■の学習の時に使った方法でこの問題を解いてみよう」など、これまでの授業で経験した内容を「次の学習へのやる気」につなげることで、正解を書き込む学習から、正解を導くための方法や過程を意識できる学習へと意識を変化してほしいと思います。

【SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)3 年技術の様子】

７月の行事予定

１（火）、２日（水）２年宿泊研修（札幌）
２（水）１・３年高校説明会（13:20～15:10）
３（木）１・３年高校説明会（14:20～15:10）
３（木）**1・3年生弁当日**、２年回復休
４（金）全校朝会
７（月）１年市内見学　レベルアップ DAY
９（水）「少年の主張」胆振大会
14（月）職員会議
15（火）「だて学」伊達開来高校授業実践
16（水）SOS の出し方講座（３年）ピンクシャツデー
専門委員会
17（木）中央委員会
18（金）参観日
21（月）海の日（祝日）
24（水）中体連全道・吹奏楽部壮行会　終業式
※25(金)～8 月1日(金)保護者懇談